

# 同窓会報



発行 豊橋技術科学大学同窓会  
発行年月 1989年 3月15日  
印刷 ㈲三愛企画

第 6 号  
'89. 3. 1  
豊橋技術科学大学同窓会

## 同窓会会員の皆様へ

豊橋技術科学大学同窓会名誉会長 学長 本 多 波 雄

本学に最初の学生が入学してきたのは、昭和53年4月でしたので、それから数えて、丁度10年を経過したことになります。卒業に際して、毎年、皆様が記念植樹をしておかれた桜の木も、早期のものはかなり成長してきました。ここにも歴史の積み重ねを見る思いがします。実際、近頃は、いろいろな場で、本学卒業生に対する高い評価を聞くことが多く、同窓会会員のご活躍に、改めて敬意を表する次第であります。

ところで、まことに残念なことをお知らせしなければなりません。それは、学生諸君の敬愛を一身に集めておられた富田宏教授が、去る8月3日、俄かに逝去されたことでもあります。富田先生は、本学創設と同時に着任され、ご専門の社会思想史、ドイツ語の教育・研究に力を尽されたのみならず、いわゆる富田スクールを開設し、師弟の枠を越えた人間同志の交りを通して、学生の思想的成長に大きく貢献してこられました。このように、掛け替えのない先生を失ったことは痛恨の極みであり、謹んでご冥福を祈る次第であります。

同窓会会報には、毎号、大学の最近の状況を書いておりますので、本号でも、前号以来の主な出来事について、簡単に述べさせていただきます。

63年3月、第7回大学院修士課程修了者として247名の工学修士と、第9回学部卒業生として301名の工学士を世に送り出しました。このうち、本学進学者以外は同窓会に加入しますので、TUT同窓会の会員数は2000名の大台を越えることになりました。

また、3月末日をもって、坂野武男(第2工学系)、高石哲男(第5工学系)の2教授が定年退官され、また、土居敏雄教授(第7学系)も退官されました。3先生は、本学創設の初期の時代からご活躍いただいた方々でありまして、名誉教授の称号を授与されました。ここに、そのご貢献に対し、心から謝意を表すものであります。

4月に入り、7日に、恒例の入学式を行ない、第1年次入学者105名、第3年次入学者241名、大学院修士課程入学者270名、同博士後期課程入学者23名を迎えました。さらに、本年度より、知識

情報工学課程が新たに設置されることになったのに伴ない、22日に、同課程の最初の学生として、第1年次入学者13名を迎えて入学式を挙行しました。

順序が逆になりましたが、4月7日、政府予算の成立をまわって、本学に知識情報工学課程が新設されました。ご存知のように、情報技術者の極端な不足が予想されており、その数は数十万人に達するだろうと言われております。しかも、計算機が発達し、人間の知的活動を代行する能力を持つようになり、これからは、人工知能という、計算機を高度に利用する新しい分野を擔う技術者が求められています。

高等専門学校においても、近年、情報関連学科の新設や改組拡充が盛んに行なわれており、その卒業生のなかから、本学へ入学を希望する者が急増するものと思われ、その対応を考える必要があります。

本学では、既設の情報工学課程には無い特徴を持ち、しかもそれと補完性のあるものとして、知識情報工学課程を設置したものであります。この新課程に依りて、新たに、情報科学、分子情報工学、機能情報工学の3講座が置かれ、第7工学系を形成します。そして、従来の第7学系は第8学系に変わりました。

61年から発足した博士後期課程は順調に経過しております。多くの他大学院で、博士後期課程は定員割れに悩んでいるのに、本学では、毎年、定員をかなり上回る入学者がおります。本年度末には、最初の工学博士が多数誕生するものと期待しております。それ以後は、課程に在学しなくても、論文審査により博士の学位を取得できる(いわゆる論文博士)ことも可能になります。会員の皆様も、機会があれば、この制度を活用されることを望みます。

本学が留学生の受入れを活発に行なっていることはご承知の通りであります。その数は、9月1日現在で、在籍者が67名、入学予定者が33名で、合計100名に達しています。ちなみに、昨今の今頃は、全部で60名でしたから、激増ぶりが理解され



### 表紙の言葉

倅せな人

それは

明日おきるのが楽しみな人

おやすみなさい

愛しい人

明日のおはようのために

By K. O.

ましよう。そこで、国際交流会館が増築され、7月18日、留学生の援助に尽くしておられる地域の方々も招いて、披露を行ないました。これで、従来の20室から、一挙に56室に増えたのですが、早くも足りなくなりました。

このたび、学内共同利用の計算機センターが情報処理センターに格上げされ、同時に、その設備も格段に充実されることになりました。すなわち、センターホスト計算機が、従来のメルコム800 IIIに較

## 学内近況報告

### エネルギー工学系

北村 健三

卒業生・修了生の皆さんにはお元気で御活躍のことと思います。年に一度の学系だよりです。今回は昭和62年10月以降1年間の系内の動きをお伝えします。まず教官の移動ですが、本年4月より第3講座の大野信忠先生が古巣の名古屋大学へ転任されました。先生は同大学工学部機械工学科の助教授として御活躍中です。なお先生は現在も週一度本学の併任助教授として来学されM2の研究指導に当たっておられます。また本学技術開発センターにおられた関東康裕先生がエネルギー工学系へ4月1日付で配置換になり、引続き本間先生と共に学生・院生の研究指導を行なっておられます。その他の教官の移動はありませんが、教官の現況を列挙しますと以下のとおりです。

教 授：草鹿履一郎(系長)、後藤圭司(系長補佐)、沖津昭慶、大竹一友、竹園茂男、小沼義昭、本間寛臣、日比昭

助 教 授：石原弘一、蒔田秀治、三田地紘史、高木章二、上村正雄、中川勝文、岡崎健、吉川典彦、北村健三

助 手：峠克己、鈴木新一、畔上秀幸、柳田秀記、関東康裕

教務職員：古内正美、井田民男

技 官：徳増学、森川正治、神谷昌宏

事務職員：鈴木弘子、河合美鈴 以上29名

この名簿を御覧になって、なつかしく思う先生方や、この先生は知らないなという先生もいるかと思

べて高機能のものに更新されるほか、ワークステーション、入出力機器も豊富に設けられます。

以上申し述べましたように、本学は創設の趣旨に沿って、順調に発展を続けておりますが、これには同窓会会員の活躍が社会的評価を得ていることによるところが大きいのであります。本学教職員を代表して、皆様に敬意を表しますとともに、今後の一層のご発展を祈って挨拶いたします。

います。

さて、修士、学部卒業生の就職状況ですが、本年度は急激な内需拡大による好況も手伝って史上空前の求人ラッシュでした。修士43名、学部13名の就職希望者に対し380社近くの会社から求人申込みがあり、全員就職内定しました。これも卒業生諸君が実社会でバリバリ活躍されていることが大いに評価されている事の一つの証しであると考えております。

最後に同窓会からのお願いですが、結婚、転職、転職等で住所、勤務先が変わりましたら是非同窓会事務局または出身研究室まで御一報下さい。それから身近にも同窓会報の送られて来ない同窓生がいましたら、是非会費を払って同窓会報を講読するよう勧めて下さい。それでは、くれぐれも身体に気をつけて、教職員一同皆さんの御健康と御活躍を心よりお祈りしております。

### 生産システム工学系

池田 徹之

卒業生、修了生の皆さん、ますますご発展のことと思います。さて、生産システム工学系の昭和62年9月から昭和63年10月までの状況をお知らせします。昭和63年10月現在の本系在学者数は、241名で、学部については、第1年次17名、第2年次16名、第3年次62名、第4年次56名で合計151名、そして大学院については、修士課程第1年次44名、第2年次46名で合計90名であります。大学院に中国(4名)、タイ、インドネシアからの外国人留学生が合計6名在学しており、学

### 電気・電子工学系

米津 宏雄

部下の育成にあたって初めて教官の思いを感じている人、学生時代の気軽さに別れをつけて新しい環境への順応を終えた人、まだ順応しきれていない人、……。"叩けば開かれる"の気持ちを持って日々努力していることと思います。

各研究室の研究活動も益々活性化しており、各先生方も国内外で幅広く活躍されております。皆さんの後輩も研究室で大いに頑張っています。その後の教職員の構成を以下に記します。

[基礎電気・電子大講座]

教 授：野田保、野口精一郎、藤井寿崇、英貢

助教授：太田昭男、西垣敏、服部和雄

助 手：井上雅彦、渡辺純二

[電気システム大講座]

教 授：榎本茂正(系長)、小崎正光、榊原建樹

助教授：長尾雅行、水野彰

助 手：水野幸男

[電子デバイス大講座]

教 授：中村哲郎(系長補佐)、吉田明、米津宏雄

助教授：並木章、朴康司、石田誠

助手・教務職員：斎藤洋司、高野泰、前中一介

同窓会報第5号からの異動は以下の2教官です。基礎電気・電子大講座の小山助手が技術開発センターに移られました。また、電気システム大講座の河本助手が第4工学系情報システム大講座に移られました。異動ではありませんが、並木助教授が文部省の在外研究員として、オランダのFOM原子分子物理研究所に10ヶ月間の予定で出張されています。

海外からの留学生や、女子学生も年々増え、国際化・多様化が進んでいます。世界はいろいろな人々で構成されていることを考えると、この流れは歓迎すべきことといえます。皆さんも社会で国際性を身近に感じていることと思います。英語をもっと勉強しておけばよかったと反省しながら、今英会話の勉強をしている人も少なくないと思います。

社会の新たな息吹きをもって、時に研究室を訪れて下さい。後輩は皆さんを見ています。健康には留意して、一層の活躍を期待しています。

部においては、本年4月に初めてマレーシアより男子留学生が1名入学しました。また、情報、物質、建設、知識情報工学系には、近年女子学生が増える傾向にあります。しかし、本系は相変わらず少なく、本年度も1年生に1名入学しただけで、本系の女子学生の在学者数は、合計3名です。さらに、本系出身の博士課程学生数は、第1年次3名、第2年次3名、第3年次3名の合計9名で、その内3名が外国人留学生です。専攻別では、システム情報工学専攻に5名、材料システム工学専攻に3名、総合エネルギー工学専攻に1名在学しております。

さて、教職員の移動は、昭和63年1月1日付で小野木先生が助教授に、2月1日付で川上先生が教授に昇任されました。そして、3月31日をもって、坂野先生が定年退職され、先生は、長年にわたる教育・研究に対するご業績に対して名誉教授の称号をお受けになりました。また、システム解析研究室の中田先生が退職されました。4月1日付の定例異動では、野村先生が教授に、寺嶋先生が講師に昇任されました。また、本学修了生の福田先生が精密加工研究室に教務職員として採用されました。さらに、文部省在外研究員として、村田先生が3月5日から来年の1月4日まで連合国のバーミンガム大学へ、そして新家先生が6月20日から来年の6月19日までアメリカ合衆国のカーネギー・メロン大学へ長期外国出張されています。

昨年の秋には、本学の名誉教授の西先生が、多年にわたる教育・研究のご功績により勲二等瑞宝章を受章され、豊橋と名古屋で盛大な祝賀会がもたれました。その他、教職員及び学生、大学院生ともに頑張っており、諸先生におかれては、海外と国内で活発に活動しておられ、教育・研究成果を学会や国際会議に発表されています。第1回修了生の江崎先生(現在工作センター)も6年間の研究成果をまとめられ、10月に名古屋大学工学部より工学博士の学位をとられました。また、接合加工研究室の五日市君(修士2年)がアメリカ合衆国のマサチューセッツ工科大学へ研究生として9月から10ヶ月間留学され、帰国後の活躍が期待されております。

それでは、生産システム工学系教職員一同、卒業生及び修了生の諸君の一層のご活躍を心よりお祈りしております。



## 情報工学系

中川 聖一

第一期生の方々は、はや30歳を迎えられ、勤務先の中堅として御活躍されていることと思います。学会でも、卒業生の名前が目にとまることがあります。学会での活躍がすべてではありませんが教師冥利です。

さて、会報第5号以降の系の教官異動についてお知らせします。まず開学以来、情報工学系での研究、課程・専攻の教育に尽力されてきた田中正興助教授が、3月31日付で御退職になり、新設の四日市大学の教授として赴任されました。卒業生の皆さんは田中先生のあの徳に満ちたお顔を思い出されることでしょうか。

4月には若さに満ちた次の3名が着任されました。計算機大講座には、京都大学の茨木俊秀教授(前本学教授)の研究室で博士課程を終えられた永持仁助手と皆さんの先輩・後輩である山本幹雄教務員(S61情報工学専攻修了)が、情報システム大講座には奥田隆史教務員(同じくS61情報工学専攻修了)が着任されました。

8月には情報処理大講座の村瀬一之助手が福井大学工学部情報工学科助教授に、10月には情報システム大講座の山家光男講師が岐阜大学教養部助教授に転出されました。系内の移動としては、情報処理大講座に本学出身者である電気・電子工学系の河本映助手(S57電気・電子工学専攻修了)が配置換えとなりました。

また、計算機大講座の湯浅太一講師は10月に助教授に昇任されました。湯浅先生は昨年の日本IBM賞に引き続き今年度の情報処理学会研究賞の受賞に輝きました。

カナダのマーギル大学に1年間出張されていた情報システム大講座の後藤信夫助手は8月に帰国され、現在のところ情報工学では長期海外出張者が零というめずらしい状態になっています。皆さんの世界を股にかけての御活躍を期待しております。

さて、来年3月には、本学博士課程の第一期生が巣立つこととなりますが、それに先立ち、小生の研究室の中西宏文君が10月1日付けで愛知教育大学情報科学コースの助手に採用され、またとないポストということで中途退学し、我々と同様大学教官の道を歩むことになりました。

来年4月から知識情報工学課程の学生が3年に編入学する機会をとらえて、今、情報工学課程のカリキュラムの大幅な改訂作業が行われています。情報工学関連科目の強化と電磁気学の選択化、並列開講の増加などが主な内容になりそうです。

卒業生の皆さん、就職活動の折り以外にも、気軽に母校、出身研究室を訪ねて来て下さい。皆さんの御健康と益々の御発展を心より祈っております。

## 物質工学系

阿部 英次

卒業生、修了生の皆さんお元気ですか。恒例として今年(昭和63年)の系内の動きをお知らせします。

昭和53年以来教鞭を執って来られた高石教授が3月31日を以て定年退官されました。また任期制教官として昭和60年8月に来られた吉村講師が4月1日付で福井高専に戻られました。

系の組織上での大きな変化としては化学情報学研究室(宮下助教授、船津助手)が新設の知識情報工学系に移りました。もっとも当分は物質工学課程及び専攻の兼任となっています。この措置にともない3年次入学者の定員が40名から30名になりました。

現在の各階の構成は以下の通りです。

5階は高山教授、鈴木教授、伊藤(浩)教授、伊藤(健)教授、堤教授、西山助教授、竹市講師、永島助手、伊津野助手、川口教務職員(本年8月採用)、坂井技官です。

4階は浅田教授、宇井教授、神野助教授、平田助教授、加藤助手、藤本助手(海外出張中)、太田技官です。第七工学系に配置替えになった化学情報学研究室も建物が出来るまでは今まで通りこの階にいます。

3階は稲垣教授、亀頭教授、上野教授、逆井助教授、角田助教授、大串講師、立木助手(海外出張中)、前田助手、斉藤技官です。

2階事務室には伊藤事務官が大きなお腹を抱えて頑張っています。また兼任で分析計測センターに私が相変わらずおり、今年は学生生活委員と言うことでこの便りを書いております。

昭和55年3月に学部を卒業した諸君は社会に出てから満十年を迎えようとしているわけですが、その間の本系の変動は大きくもあり、小さくもあった

という感じですが。大きかったというと、社会に出ている皆さんからは所詮はコップの中の嵐ではないかと言われそうですが、そのコップの中にいる者にとっては激動です。知識情報工学系の新設に伴っての入学定員の削減は系にとっては大きな出来事ですが、これを機会に時代の要請に遅れないようモデルチェンジが行なわれようとしております。御期待の程を。

## 建設工学系

加藤 史郎

昭和63年1月からの教室の動きを紹介します。

交通工学を担当されておりました青島先生が群馬大学の土木工学科の教授に3月昇任進され、幅広く研究・教育にご活躍です。群馬にお越しの節はお寄りくださいとのこと。4月には、後任の助教授として、名古屋大学から広島康裕先生が赴任され、新しく研究を開始されています。システム情報工学の専攻生の片田君(昭和60年修士)や青島研の学生も広島先生と頑張っています。

昭和62年10月に本間先生が教授になられたあと、63年4月に東北大学から松本廣先生が助教授として赴任され、建築環境研究室で活躍されています。また、同じ4月に構造工学講座の講師として徳山高専土木建築学科から原隆先生(柔道3段の腕前)が赴任され、学生とコンクリートシールの座屈の研究を開始されています。8月には、文部省の在外研究員として約1年アメリカに出張されていた田坂先生が帰られ、新しい研究に向け頑張っています。

構造工学講座で構師の蔣先生は7月に助教授に昇進されました。たくみな日本語をはなされる先生も日中共同研究を終えられ、中国に帰られます。蔣先生の後任の外国人の先生として、アメリカのヒューストン大学から助教授として韓桂宗(Han·Kye·Jong)先生が赴任され、英語で講義をしておられます。Victor先生、Yotsukura先生、蔣先生と建設工学科も国際的な雰囲気があります。環境講座の開発先生は、11月より広島大学の総合科学部の講師として栄転されます。

博士課程は、この4月間瀬実郎君、目山直樹君、葛甬生君、李徹救君の4名が入学しそれぞれ研究に励んでいます。

同窓生の皆さんも頑張っておられることと思いま

す。調子の良いときもそれ程でないときもあるでしょうが、暇な時には母校を訪ねてください。後輩が楽しみにしています。

## 第八学系

富田先生を偲ぶ 浜嶋 昭二

開学以来ドイツ語と社会思想史を担当してこられた富田先生が亡くなられました。以下は私的解釈による遺言状であります。先生の本来の専攻はドイツ啓蒙主義の文学でした。文学とは人間の生き方を問題にする芸術であります。そして啓蒙主義は「知」によつて「蒙」を「啓く」ことをめざした運動であり、その根底にあるのは人間愛であります。「知」がしかし人間愛という基盤を持たずに一人歩きし始める時、即ち科学技術がそれ自体の中にその運動法則を求めるとき、それが如何なる結果をもたらすか、原爆あるいは公害の事実を見れば明らかであります。逆に又「知」が足らざれば人間はいかに無謀なことをするか、戦中先生が身をもって体験された所でもあります。そして全体として「知」が支配する時代にあつて「感性」に訴える文学に依るもどかしさが、社会学に関心を向けさせることになったのでありましょう。「知」の異なった有り様、「感」の可能性を探り、歴史的破局に到る過程において何が不足していたかを知ろうとしたのであります。その中で後半生のライフワークとなった第一次大戦のドイツ人俘虜の研究において、文化にまで高められ、血肉となった「感」と「知」の教育成果が、極限状況下においてなお人間の尊厳を保ち、人間的な共同体を作ることを持てるものであるという認識を得るに到ったのであります。

またドイツ語教育の分野において先生は、視聴覚機器の活用を最も早く提案した一人でありました。異質なものの理解のための言語学習即ち極めて人間的な目的に、最近ではコンピュータにまで到る技術の成果を取り入れ、技術が人間理解に有効に働くことを目指していました。先生の教えてこられたのが実用的、即ち「知」の一面にのみ奉仕する言語ではなく、ドイツ語という実用性を失った言語であるのは、この意味で象徴的でありましょう。「感」と「知」が相互に高め合い、技術と人間愛が相互に支え合う、それが先生の意であり、卒業生及び在学生に対するメッセージであります。



# 退官教官より

※この原稿は、大学（学生課）の協力により「天伯」から転載したものです。

## 生産のシステム化について

第2（生産システム）工学系  
教授 附属図書館長 坂野武男



1人のエンジニアが生産のシステム化に挑戦してきたエグザンプルは、エンジニアをめざす学生諸君に多少の得るところはあるかと思ふ筆をとることにした。

振り返って見ると最初から生産のシステム化をねらったわけではなく、もっと具体的（工場）なシステムの合理化を心掛けて生産技術の分野に足をふみ入れたに過ぎない。がこの40年を一貫してやってきたことはまとめてみると生産のシステム化を心掛けたということになる。

大体システムという言葉も40年前にはポピュラーではない。日本から米国へMISの視察団が行ったのが1967年頃で、これ以降システムという言葉が一般的に使われるようになったと思う。本学の構想はこの頃より始まり非常に当時では珍しい生産システム工学専攻という言葉も取りかわされたのではなかろうか。同じ頃私はモータリゼーションが高度成長の波に乗り、工場拡張に当りマネージャとして生産技術の強化に苦勞していたが、システムという意識は全体（トータル）としての概念で技術上の問題をアプローチしていた。これはより一般的な概念としてのシステムと何等矛盾するものではないが、意識の抽象化の過程を体験したわけである。

大学を出たのは終戦直後の混乱の時代であり、つづく15年間は技術の積みあげ時代であった。次の15年間はマネージャとして2度のオイルショック、マスク排ガス対策を体験し、省資源省エネルギーの要求される時代へと変わって行った。次の10年では本学の教官としてソフトエンジニアリングの確立に努めたが、これは30年の体験を通してその必要性を痛感したからとも言えよう。

会社時代の“製造工場計画におけるシステム工

学”の小論は、1973年稼働の最新鋭の無公害工場に用いた工学手法の中でシミュレーションを中心にまとめたものである。題名のシステム工学というにはやや異質である。しかしシステム目標を達成しようと思うと、長い伝統のある専門工学だけではカバーしきれないORとか制御工学などの管理工学が必要である。これがT型やπ型エンジニアを要求されるようになった理由でもあろう。

これに用いたシミュレーションは何れも実験または現場で確認されたモデルである。アセスメントとしては非常に有効であった。生産技術は結果で評価できるから、結果のでない理論は如何に立派でも評価されない。それだけに実証主義的となりブラックボックスのまま因果関係で結果を出すこともある。その典型は制御分野のシーケンス方式で、次々に連続した動作をプログラム通りに動かせば自動化はできる。ここではダイナミックな適応制御をせずとも一通りの結果はでるが、精度のある再現性は少ない。現実の生産工程ではこれで可成り満足されている。これが一つの問題点でもある。

本学ではこのダイナミクスを研究したが、これを系統的に考えるとFAの概念に到達する。商品開発より市場に出すまでのコンピュータ援用技術の集積ともいえよう。OA, CAD, CAM, CAT, LA, FMSなどで表現されている各種の援用技術が用いられ、システム目標を達成しようとするわけであるが、この一連のステップの中の生産分野ではダイナミクスの制御が不可欠である。

システムの挙動を最適化するためには、状態の把握（解析）と、その挙動を目標値へ適合させる問題点を究明し、ニーズに対応できるソフトエンジニアリングを確立することであり、制御工学と熱・物質移動論が要素工学として重要である。

現在の国際化の急展開は、国内産業の空洞化の懸念をもちながら進行している。またより高度化した知識情報もあらゆる分野に進展してゆこう。

生産技術のソフトの高度化は、かかる観点からも要望されるわけであるが、以上の諸見が何らかの御参考になれば幸いである。

## 杞憂

第5（物質）工学系

教授 高石哲男



豊橋に来る前に、高専卒業生の資質について、彼等を受け入れている大学の友人達に問い合せた。異口同音に、高専からの編入生は一年から上って来た学生より遙かに優秀であると言う。「その人達だけを集めて、博士コースまで出来るなら、名古屋大学の上、東大の下ぐらいのレベルの大学になるかね。」「そりゃそうでしょう。是非御移りなさい。」と。そのまま信じて、豊橋に移って来てしまった。ところで実情は……、言わぬが華。友人達が私を欺したわけではない。彼等の認識は初期の高専に関するもので、十数年の間に世の中は激変したのであろう。

登山家はハイキング・コース程度の山登りに満足せず、困難なエベレストやマッキンレーに登りたがる。自己を鍛えあげ、困難を克服することに無上の喜びを感じる。受験生も同じで、気力あるものは難しい学校を難しいがゆえに志望する。この希望を阻むものは経済的条件で、20年前はこの束縛は実に厳しかった。片田舎から大都會の大学に進学する経済的負担に耐えられず、地元の高専に進学する少年が多かった。日本も豊かになり、この経済的束縛が消滅しつつある。気力ある者は困難な道を選び、気力なき者は安易な道を選ぶ自由が生じた。高専入学が易くなると、気概のある少年は逃げてゆく、そしてポジティブ・フィードバックが働き、愈々易くなって行く。それが我が大学に波及して来た次第である。

技術科学大学設立の経過を見ると、高専卒業生が大学に進める経済的条件を獲得し始め、進学希望が急増した時点で、技術科学大学が計画された。モタモタして53年に実現した時には、経済の方は遙かに発展してしまい、当初からピントはずれになっていた。その時点で過去、現在、未来を検討し、手直し策を練るべきであったが、現状固定のまま今日に至った。不親切である。学生の素質に合う教育をし、本学の評価を高め、それが波及して高専の人気上昇。そのような循環を作り出さなければ、没落あるのみ。

卑近な例を挙げる。高専設立の頃は、工場の現場係長クラスの養成を目途したのか、英語の授業時間が普通高校より少い。係長クラスの養成に限定して考えても、英語力がなくては工場の海外進出という現代潮流に合わない。まして大学進学者の比率が増し、博士コースに進む者まで出て来たのであるから。「どうしたらよいか?」。私の具体案は折りにふれ申し上げているので、ここに再述しない。皆さん、考えて実行して下さい。

研究面について少々述べる。新構想大学とは、理工系に必要なインフラストラクチャーの完備した大学だと早合点して豊橋に来たが、本校のインフラストラクチャーは余りに貧弱である。数年前電源電圧が130ボルトを越し、2,3のメーターが壊れた。30年前にはどこの研究室にも電源安定器があったが、10年前から電源がよくなって研究室に安定器を見かけない。然るに新設の電源が水準以下とは!

またワークショップは無に等しい。工作センターという名に欺されて大いに期待したが、幻想であった。ストック・ルームの無いことは最も痛い。測定器はトライアル・アンド・エラーで漸次改良してゆくから、外注では時間がかかり気が気でない。学内の工作所と連携して進めることは、学生の教育訓練上も絶大の効果を持つ。今の人達は子供の頃工作に親しんでいないから、簡単なものも作れない。部品をストック・ルームから持って来て、半ば自作し、難しいところはワークショップに作って貰う。この繰り返しから工夫する力がつく。センターに数千万円の機器を数台並べて、ボタン操作するのが研究と思わせ、さあ実践的創造的仕事をせい、といっても無理である。その1台の機器分の費用をストック・ルーム設置に回せば、どのくらい便益を生ずるか量り知れない。ビス1本、抵抗1個に1週間以上も待つ現状は、まことに悲惨である。今は拡大を考えるよりも、インフラストラクチャーの充実が先決であろう。大きい装置の欲しい人も総論賛成各論反対ということなく、全員が研究しやすくなるようインフラストラクチャーの充実到大同団結して欲しい。

# Free Talking 同窓会員各地の便り

(会員番号は以下に示す通り。  
6桁 → M: 修士修了 B: 学部卒業 3桁→所属工学系(1~6)  
5, 4桁→修了・卒業年(西暦) 2, 1桁→通しナンバー)

## 近況報告

B80601 遠藤 真弓

どこからともなく襲ってくる睡魔と戦いながら、私は今、必死にペンを握り締めて書いています。

7月31日。この日は、私にとって忘れられない長い長い一日でした。波のように幾度となく押し寄せてくる陣痛に耐え、やっとの思いでそれを乗り越えて、長女江理を出産しました。そしてこの日から、私の子育て奮闘記の始まりとなったのです。

結婚してまる二年が過ぎ、子どもができた今は、これまでも増して、目の回るほど忙しい毎日です。学生時代は、三食、昼寝付きの、のんびり主婦に憧れたものでしたが、いざ自分が直面してみると、考えの甘さにただ呆然とするばかりです。

子どもの泣き声で一日が始まり、また終わるといような毎日を送っています。子どもの世話の合間に溜まった家事を一気に熟し、昼寝をするどころか、三度の食事すらゆっくりとすることができない状態なのです。おまけに、夜中に何度も起こされて、睡眠不足も重なり、疲労は増すばかりです。こんな状態で原稿を書いている自分が信じられません。こんな気持ち、男の人にはきっと分かってもらえないでしょうね。子どもができて、男の人には仕事があり、ある程度の生活時間に自由さが持てるんですから。母親はそうはいかないんです。一日、24時間、睡眠時間さえもさいて、子どもに接しなくてはいけないんですね。

でも、私の子育ては始まったばかり。今から弱音を吐いてはいけません。

今はまだ首もすわっていない娘ですが、一日一日と成長してゆく姿を見ていると、とてもうれしく思います。新米ママとしては、子どものためにもがんばらなくっちゃ!

「ウッキヤ~~~~。」

けたたましい子どもの泣き声に、フッと我に帰ります。久しぶりに持ったペンで書くつかの間の文字

の練習も、どうやら時間切れのようです。さあ、ペンを置いて、おむつでも取り替えてあげようかなー。



## 夢は大空に向けて

M84102 石橋 仁也

豊田工機(株)

夢を追い続けていたらいつかこの道を歩んでいく。幼い頃から大空に憧れ、必ずパイロットになるんだと決めていた。当然中学生の少年に、はっきりとした将来像などあるはずもなく、大学進学を考えてもその後どうするんだというあてもなかった。純粋に空を飛ぶにはどうしたら良いのか、そればかりが頭にあった。

それなら一層のこと受験に関係のない高専がいい。3年を終れば高卒資格が得られ、航空大学を受験することができる。また、高専なら工学技術を学ぶのだから飛行機にも関係が深いわけだ。そんな夢が自分の将来を具体化させ、いつしかはっきりとした目的になっていた。ところが、パイロットになるのに一番大切な視力が低下した。夢が奪われたと思ったが、逆に大空への夢は膨らむばかり。暇さえあれば近くの飛行場へ行き飛行機ばかり眺めていた。そして高専が終わった。

職業パイロットの道は閉ざされたが、飛行機からは離れられない。その頃には、技術者魂みたいなものが一分ぐらいは養われていたのだろう。飛行機を飛ばせないのなら、その飛行機を作ってやろうな

## 近況報告

M82401 浅野 一

松下電器産業(株)

大阪・梅田の旭屋書店でベストセラーというマーク・ピーターセン『日本人の英語』がいい。まともな英語を書くのに役立つのはもちろん、まともな日本語を書くのにも、言語を問わず言葉に対する神経を研ぐのにも役立つ。時制や冠詞、前置詞、副詞といったものひとつひとつの選択が文章の章味や文脈をいかに大きく左右するかがこと細かに記されている。ニュアンス設計、文脈設計、論理の流れ設計と設計という言葉を使っても大げさではないだろう。

日本人の書いた英文に論理関係を表わす言葉のまちがいが多くとマークさんは指摘する。日本人の書く和文にも当てはまることだ。最近ひどく気になるのが逆接の接続詞の誤用である。接続されるふたつの文の内容が相反していないのにこれを用いている例が多い。蔓延している。これは一例だ。文書だけではない。日本人の頭の論理構造そのものがどうにかなったのではないかと思うことすらある。政治家の頭の論理構造みたくなら困るよ。

会社で論理的な考え方をする奴が少なくて困っている。ドキュメント書かせれば分りにくい書くし、とやっと本題に入る。しばしば正論が通らない。政治の世界じゃないぜ全く。わしら技術者や科学者が正論を言わなくなったら終わりでしょうが。『日本人の英語』からの孫引き引用(重複形容しました、すみません): 論理的帰結とは、患者のこけおどしであり、賢者を導くともしびである——T. H. ハックスリー。

マークさんが言うように言葉の選び方で多くの事が分る。「俺はおまえより経験が長いのだ」という上司は信用しないというのが私の得たひとつの知恵。経験という「量」を「長さ」で計っている愚かさ。時間に比例するような誰でも得られる経験しかして来ていないからこそ、こんな発想しかできないわけ。冗談じゃない。逃げるが勝ち。

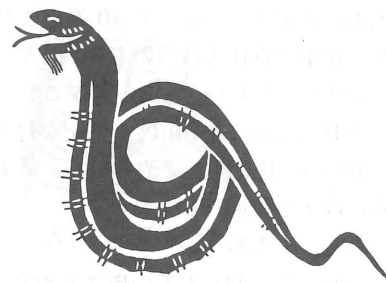
技大のバカな後輩が、上司は選べないと嘆いた。そんなことはないよと彼をしり目に私は転勤。なぜ論理のことを延々と書いたか分ります? 転勤後の私の新しい仕事がロジック設計。これで近況報告。

んで気分になっていた。夢が形を変えていく。運良く技科大編入の推薦資格を得ることができ、新たな人生が始まる。

飛行機は各分野の最先端技術の集合体であり、その中のどの一つをとっても一生涯の仕事になりうるだけの魅力を秘めている。裏がえして言えば、工学のどの分野であっても飛行機に通じるのであり、技術者として生きるのならば、飛行機に拘る必要はないということである。

このことを在学時代に恩師の日比先生から教えられ目がさめる思いであった。飛行機から離れて将来を望むことができた。これは決して飛行機を諦めるということではない。もっと広い視野に立って飛行機をみつめることができ、工学のおもしろみを飛行機を通して知ることができたのである。これが唯一在学中に学びとった大きな教訓となった。

大学院修了後、軽飛行機を習おうと何度か大空を飛ぶことができたが、会社の先輩の墜落死により、初めて死を現実のものと感じた。妻子をもつようになり責任ある立場になって今は空の道を断念している。しかし今でも大空への夢は全く消えていない。夢は形を変えつつも、自分の心の中で増々広がっている。





### 技科大気質

B81501 井 田 誠

本田技術研究所

大学を卒業して7年過つ。僕はたぶん2回生だ。個人的には7年という時間は取り返しのつかない位大きい。取り返してもこのままだろうと思うと情けない。けれど大学自体はまだ新しい。技科大気質といっても生まれたての赤ん坊みたいなので、初々しく輪郭もできていない。に違いない。と思う。

あと十年位すると面白い。単に年齢の問題ではない。第一、技科大気質を造って行く人達は若くなければ意味が無い。それに「まじめ」だとか「粘り強くてヘコタレない」といった陳腐なものなら、そんなモン無い方がましだ。人数と月並みを越えるに要する時間の問題なのだ。これから大学に入る人、卒業する人、社会で活躍している人。それらの人々全員に大いに期待したい。平和な時代だ。ヒーローがいない。つまらない時代でもある。だからだ。

別に工学に限らない。若くして国際的大企業の社長になり、けれど自慢話は一切せず、説教もせず、何時も冗談を欠かさず、スケベで、バカ笑いばかりして、何を考えているのかサッパリ解らない人。アフリカに飢餓救済に向かい、いつしか日本語も日本人である事さえも忘れ英雄になり、それでも鼻に水牛の角を通して象に跨り陽気に記念撮影に応ずる人。量子力学も、ニュートン力学もとにかく何んでも否定してしまう全く新しい(そりゃそうだ)学説でノーベル賞を受けて「難しい? 解らない? そりゃそうでしょう。ほとんどデタラメですからね」と平気で言っちゃう人。3大メジャーを制覇し、年間グランドスラム目前という所で全英オープンを棄権し、「調子のいい時に日本オープンを取っておきたいからね。全英? いつでも取れるさ」と達者な英語でジョークを交えて答える人――。

もうこの際、悪い事でも何でも構わない。ウォール街で大仕事やって風雲児と呼ばれ、果てはコンクリート詰めされるヤツ。複数の愛人関係のもつれから殺され、しかし根性で雑木林の中で蘇り坊さんになり千日回峰してるヤツ。コンピューターで米ソの軍事中枢に侵入し、なんと両国のICBMを発

射しそれぞれ互いの発射サイロにキチンと戻し「俺はただ核の安全性を確かめたかっただけだ!」と訳のワカラナイ訴えを米国訛りのロシア語でするヤツ。反捕鯨の腹いせに南氷洋で米国潜水艦に平頭銛を打ち込み「ナなもん、あんな所で浮いたり沈んだりしてりゃ鯨と思っても仕方ないッペ」と言う片足の漁師。ゴルゴ13に狙われて困ってるヤツ。

「トンデモナイ事する」。これが技科大気質になれば最高だ。ウン。などとバカな事を考えている時期にふと我に返り悩んだ末に1回会社を辞めてしまった。今は一人にしといて。

### ベートーヴェン

B80101 川 村 俊 一

日本

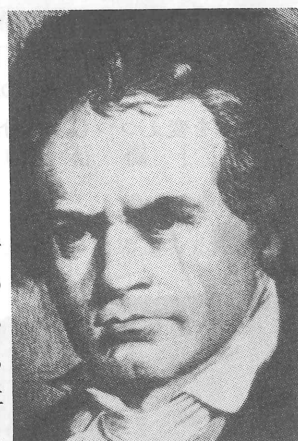
卒業して数年が過ぎた。教養と挫折感と女性体験の乏しい我ら高専・技科大生も、使い捨てた時間と、筋肉と化した体験の中で、有色の鎧を身につけ、がんばっていることと思う。

ところで、人間の体で脳細胞を除いたすべての細胞は約7年で新しいものになる。とすると、我々も卒業してから新しく生まれ変わったことになる。そして新細胞の我々は30代になる。数年前、ある人生の先輩が私にこう言った。「組織の中にあって、心ある男は30を過ぎると必ず考える時期が来る。」と。何を考えようと個人の勝手だが次のような事は、回りを見渡せばよく目につく。

人生の差が出てくるのも30過ぎてから。  
顔と仕事に責任を持つのも30過ぎてから。  
7年目の情事もハゲも30過ぎてから。

といった具合である。30代でこんなに恐ろしいのなら、40・50代はもっと恐ろしい。これを楽しく生きるには次の三通りしかない。

- ① 真剣に生きる。
- ② 一回りも二回りも若い奥さんや恋人を持って自らが若返る。



③ この文に唾して、ここで読むのを止める。でもやっぱり①がいい。②もいいがインシュタインが許さない。③はすでにここまで読んだのでもうない。そこで真剣に、かつ楽しく生きるべく、桃太郎伝説のキジになり、ワインを飲みながら男の道程を語ると、VSOPになる。

V : vitality→20代 理屈抜きで幅広く、とにかくがんばる。

S : speciality→30代 自分の専門性を形成し、存立基盤を確立する。

O : organizer→40代 後輩を育成し、組織の力を活用する能力を持つ。

P : personality→50代 人格を備え、人間性で生きる。カリスマ性を持つ。

そして、いくつになっても枯れることのない感動の涙を持って、よりマクロの善に沿い、スパイラル状に翔けるのである。

がんばれ、ベートーヴェン。



## 求む 原稿・表紙

### ■ 原稿

23字/行 横書き 厳守  
その他：内容・長さ等は問いません。写真も添えていただければ幸いです。  
随時、受付けますので下記まで送付下さい。

〒440 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1  
豊橋技術科学大学内

” 同窓会事務局  
同窓会誌 編集 係

### ■ 表紙

写真、絵、グラフィックデザイン等何でもOK!

・サイズ：B5版程度に縮小、拡大可能なもの。

※CM的な要素のものを除く  
採用の場合は薄謝を送付致します。

※送付先：同左



### 『おたずね者』

年齢：40才未満  
特徴：頼まれたことをなかなかやらない  
性格：忘れっぽい、又は無責任 ……と推測される

※机の片隅で返信用封筒が泣いています。

「頼まれた原稿は 今すぐポストへ」

編集委員からのお願いです。



## 同窓会事務局より会員の皆様へ

### ご挨拶

豊橋技術科学大学同窓会会長

B83316 西澤 一

同窓会活動開始から本年で7年になります。ここで今一度、同窓会の存在価値を考え直してみたいと思います。皆様にとって、同窓会のメリット、デメリットとは何なのでしょう。年会費を支払うに見合うメリットが本当にあるのでしょうか。

同窓会のメリットは、「旧知の消息を知ることが出来る」に尽きると思います。本会の場合、それが実利につながるとは考えにくく、会の本質を考えた場合、実利を強調することは、危険にも思われます。若き日の若人達との連絡手段を、個人の範囲を超えて得ることが、同窓会の存在目的であり、且つ唯一のメリットであると言えます。

これに対し、デメリットは数多くあります。

第一は、プライバシーの保護問題です。色々な理由で、自分の住所等を他人に知られたくない人がいます。本人の希望を無視して公表する権利は、同窓会にはありません。しかし、公表を希望しない旨を知る手段は、同窓会には無いので、申し出が無い限り、全ての会員の情報を集める、且つこれを他の会員に公表しようとする。公表を欲しない会員は連絡くだされば、公開を防止することが出来ます。

第二は、過失による不正確な情報公開です。単純な転記ミス、誤情報、古い情報の入手等原因は様々です。今後とも、不正確情報は減らすべく努力を続けます。

第三は、会費の問題です。特に、初期会員には「結成当時、終身会費として必要経費は全て納めたはずなのに、加えて年会費を請求するのはおかしい。」と憤りを感じずる方もみえるものと推測します。この問題への回答は、同じ説明の繰り返しになりますが、「後輩の出費によって先輩にサービスを提供するのは不公平である。」ということです。会員数は年々着実に増加するので、固定された入会金(旧終身会費)だけで会運営を継続することは困難です。例えば、情報確認のために一通の往復葉書を発送する場合、昭和57年の約3万円が、

平成5年には25万円必要になります。これを毎年入会金だけで賄うとして、12期生は1期生の10倍の入会金を支払うべきなのでしょうか？

会報、名簿を発送しなくても、会員情報を更新、維持するために費用を必要とすることをご理解下さい。同窓会では、他の会員へのサービスの為に年会費未納会員の情報も更新、維持しますが、未納会員本人へのサービスはいたしません。彼は会員情報の維持経費を負担しないことになるからです。

第四は、種々業者からのダイレクトメール、職場へのテレフォンコールで、不愉快な経験をされた会員も多いことと思います。私も、先日、豊橋技科大同窓会の名簿のコピーを基に電話をしたというセールスマンから電話を受取り、つい感情的な言動をしてしまいました。同窓会では、これらのセールスマンへの会員情報流出を防ぐことは出来ないように思えます。この問題は、ぜひ会員の皆様自身で防衛して下さるようお願い申し上げます。

最後に、役員負担の問題があります。成り手が無いのです。本年度は、念願の事務局設置を実現でき、今後の活動に展望が開けた年ですが、人不足は変わらず、事務局を除けばここ3年、中心メンバーの異動はありません。古い役員からは、不満の声も聞かれます。彼らは好きで活動するのでなく、運悪く引き受けた後やめられないお人好し人間の集合なのです。この様子を少しでも知って頂くため、本号では、先頃行われた役員座談会の様子を載せてみました。役員会に対する会員の皆様の理解の一助になれば幸いです。

見直してみると、デメリットばかりが目につきますが、それなら解散してしまえば良いのではないかと。ときに、そんな考えに捕らわれるときもあります。解散しないのは、同窓会の存在価値が、現在ではなく、十年、二十年後に出て来るのではないかと。また、一度解散した後では、容易には再結成できないであろうからです。

今後とも、役員会としては、本会を存続させるため、地道な努力を重ねて行きますが、会員の皆様にも、会運営への積極的な提言や年会費の納入を含め、ご協力下さいますようよろしく申し上げます。

### お詫び

豊橋技術科学大学同窓会会長

B83316 西澤 一

昭和61年発行の同窓会名簿に下記の重大な誤りがありましたことに深くお詫び申し上げます。

北島敏男さん(M84529)、北島明子さん(B83518)の氏名欄に「4月修、4月卒」なる記載がありますが、本記載はあきらかに誤りであり、申し訳ありませんでした。

北島さん以外にも同様な誤記があるものと思われる

## \* 同窓会役員覆面座談会 \*

同窓会役員覆面座談会 昭和63年10月中旬、この年第二回目の役員会は、定数ぎりぎり成立したものの、家族、友人の結婚式に出席するために午前中で抜けなければならない役員もあり、午後からは、同窓会活動に対する座談会に切り替えました。役員会の窮状と活動の実態を会員の皆様に理解していただくため、可能な限り当日の内容に近い形で編集し、ここに掲載することにしました。皆様の批判、助言、協力を強く期待します。

### 同窓会名簿、会報の発行方法について

N: 名簿だけではなくて、会報だってできますね。

E: 会報の場合、写真がめんどうだ。網掛けをしなければならないから。網掛けした写真を原稿に張り付け、写真にとって製版にするわけだ。

N: そうすると、もう少し安くできそうですね。

A: 会報は、難しいでしょう。だって、原稿が手書きですから。その文章を入力する手間の方が大変でしょう。名簿なら元がデータベースとしてあるから良いでしょう。

N: 名簿は、今回やりましょうか、それ。今、それで問題になると思うのは、データベースに登録されている漢字で特殊なものは、まかないきれないことです。現在は、それを手入力で、オペレータの人に、写植機が持っている特殊文字に置き換えてもらっているのです。手入力の部分は、データベースからプリ

ますが、重ねてお詫び申し上げます。

本会員名簿は、同窓会に名簿の単独発行能力がなく、大学側との共同作業であり、且つ、両者の意見調整が不十分であったことが、今回の誤記の間接的な原因になっているように思われます。

尚、会員番号は、あくまでデータベース処理のための便宜的な数字であり、その順番には特別な意味はありません。あいさつお順に従うことが多くなりますが、クラスによってデータ処理上全くばらばらになったり、一部順番が異なることもありますので、ご了承下さい。

ントアウトして現版とする方法では、対応しきれませんね。それさえ許してもらえなら、残るのは、見栄えの問題だけです。

A: 特殊文字のデータベースの入力は、どうしているのですか。

N: パーソナルコンピュータが持っていない文字の場合は、他の近い文字に置き換えて登録していたと思います。例えば、旧漢字を簡略化された新漢字に置き換えるとか。ですから、手間を考えると、データベースに登録されたデータを無修正で写植に持って行くのが、現実的だと思います。今度の名簿は、その線で考えてみましょうか。表紙だけ、写植も印刷所に頼んで。

### 同窓会役員 の メリットとデメリット

N: この件は、何から始めましょうか。同窓会役員を務めることの、デメリットは何でしょう。デメリットから言い始めるとたくさんありますよね。

A: みんな、仕方が無いからやっているんです。

N: そりゃあそうだよ。誰が喜んでやりますか。いな、役員なんて。

(笑い)

A: だから、新しく役員をやってくれるよう頼むにも、こんな良いことがあるから、ということが全然無いんです。金銭的な負担は、とりあえず無くなったけれども、結局、会議にしても、いろいろな作業にしても、夜遅く

か、休みをつぶしてやるわけでしょう。それに対する見返りが全然無い。

N: 見返りと言うけれど、具体的にどういうものが見返りとして考えられるかな。

A: 金の話ばかりしては、いけないけれど、時給が 500 円は安い。とりあえず、深夜の残業とか休日出勤に対応するわけだから、現在の時給の倍くらい出しても良いんじゃないかな。

N: でも、それだけでつれるかな (編者注: 新しい役員を獲得できるかの意味)

A: つれない。

N: (新役員に対して) 同窓会の役員をやってくれないかと聞かれたとき、どう思った?

F: 僕らしか、大学に残っている人間が居なくて、同窓会の役員が少ないからと言われて、やるしか無いだろうなと思ひました。

N: そうなんだ、始めはみんなそうして役員会に入ってくるんだ。それで今残っているメンバーは、しがらみで逃げられない者たちだけなんだ。普通は、少しでも隙があれば、ちゃんと 2 年の任期後には役員会には来なくなる。確かに、何か魅力が無いと役員会には残らんかもしれんね。やりたくないなと思ひながらも 1, 2 年は続くんだが。ここで役員会の過去について少し話すと、確かに 1 期の卒業生が役員をやっていたころは、ちゃんと 2 年で任期を終えてもうまくいっていたんですよ。

それでは、何故、僕みたいな 2 期生が、今でも役員会に残るとるかと言う話になるんだが、少し話すとこんな話です。

僕の任期 2 年が終わる昭和 60 年度 3 月最後の役員会で、在学中からやっていた 1 期生の人々のうち任期 3 年の会長、副会長の人が、「今日で任期満了ですから役員を止めます。この場で後任の三役を決めます。」と言い始めたのです。

この年、役員会を良くさばり、たまには出席しなければいけないと思って出席したところ、この日の会議に出席した 2 期生は、僕だけでした、あとは、今も残って頑張ってくれている 3, 4 期生の人たちだけ。仕方が無いから (自分では 1 年我慢するだけで良いと思って) 会長をやることになったので

す。(但し、この時点では総会の承認も無いので、正式な役職とは言えません。)

その後の 1 年間は、ほとんど活動もせず、会報も発行しませんでした。(誤り: 活動がほぼ停止し、会報発行しなかったのは、前年の昭和 59 年度でした。) 任期 3 年と言うのは、役員を始めてから 3 年ですから、僕はそれで終わっても許してもらえはざったんですが、その 1 年ほとんど活動もせずにいた (誤り: 活動低調だったのは昭和 59 年度) ものだから、これで良いのかと考え直して、61 年度は本格的に活動することになったのです。このとき、つきあって役員に残ってくれた 3 期生の連中が、いまの主力メンバーなんです。

それまでは、役員と言うのは、自分が同窓会活動に使った時間に対する補償は全く無く、交通費も無し (正確には、役員会出席時の交通費は、市内 500 円、市外 1000 円だったと思います)。皆、自腹を切って活動していた。領収書が取れる事務費等のみはお金が出ていた。役員をやめて言った人々の多かった理由は、お金の負担だと思ひ。そこで、役員のお金の負担は無くするようにした。遠くから来る人間には、交通費がかかるということで、交通費も実費を払うことにした。

けれども、メリットが無く、新役員を確保できないということが、ここで問題になっているのです。

E: 本質的な問題は、お金とかそんなものじゃ無いんじゃないかな。本当はやりたくないというのが一番の原因でしょう。

N: 本当は、その解決法があると良いのですがね。どう思ひます。

A: 半分はボランティアなんだけど、いくらお金をもらっても休みを潰して活動するのは苦痛ですね。近くの人が良いけれど、名古屋から来ると丸一日完全に潰れてしまう。そこを考慮して、やったら大変だけれど、その分何か後に、作業内容とか役員会の出席に応じ、何時間、何回出席した人は年度の終わりに旅行券がもらえるとか。(笑い)

そのくらいであれば、大変だけれどもそのかわりやってくればこういうメリットがあ

るからと、後輩を説得できる。全員が集まって宴会をやるというのも良いけれど、出席するのが難しいと思うから。

会計の仕事なんて本当に大変だと思ひ。僕だったら、使い込んでしまいそう。

やったらやっただけのことがあれば、2 年間ちょっと辛抱してくれよと、やめるときに後継者見つけて引き継いで行けるでしょう。

N: しかし、基本的には、同窓会が扱っているものは、会員の消息という情報だけだもんな。

A: 仕事をやっていく時期、ある時期多くの人手がいるときがあるでしょう。そういう時のために、人手確保のシステムを作っておかないといけない。人脈、コネのある人は大丈夫だけれども、無い人は作業をすべて自分で抱え込んでやらなければならないことになってしまう。

N: 前に、学内の役員でやめて行った人たちから、同窓会の仕事をやっていると、役員会で決まったこと以外にも、大学側から「君は、同窓会の役員をやっているのだから、こういうことをやってくれ。」と言われることが多く、大変苦痛であるのでやりたくない、よく言われました。

また、外から同窓会あてに電話がかかって来ると、例えば、重要な会議中であっても、これに対応しなければならぬことなども困っていたようです。

E: 重要な会議なんて、そんなに無いですよ。(笑い)

N: すなわち、同窓会にかかって来る電話がどんなにくだらぬことであっても、全てに対応しなければならぬそうなんです。

E: そういう電話は、今、全部僕のところに回されて来るけど、部屋に居るときしか、回って来ない、研究室外に居るときには、どこにも回しようがないから問題無い。交換や、学生課には、同窓会へかかってきた電話は、全て回してくれと言っている。そんなに苦痛では無いですよ、いろいろな電話があってもいいですよ。少なくとも、会議中にかかってきた電話には、絶対に出ないですからね。

N: 基本的には、同窓会の仕事をやっていてメリットがあるとすれば、顔が広くなるとか、

人のつながりができるとか、自分の名前が売れるとか、その程度のことでしょ。

E: 名前は、売れないでしょう。例えば、ここに卒業生を一人連れてきて、同窓会の役員の名前を言ってくださいと聞いても、答えられる人は居ないでしょう。確かに、会長ならば覚えている人もいるかもしれないが。

N: それをもっと売るようにするなんて、どうです。例えば、役員は、必ず会報に寄稿文を書いて宣伝するのはどうです。

E・A: そんなのやめよう。かえってうっとうしい。名前を売ったって別にメリットにはならない。

N: それは、そうですが。変な電話は、たくさん来るようになりますよ。

E: F 君なんか、名前が売れて女の子からたくさん電話が来るようになればうれしいけどね。

F: それは、そうですね。(笑い)

N: それでは、人脈ができるというのは、どうですか。

E: どういう人脈ができるというのですか。知合いになるのは、他の役員だけでしょう。みんなヒラだし。

N: あまりおもしろくないですね。何か、ないでしょうかね。

A: とりあえず、現在は、経済的な負担は無いけれども。2 年なら、2 年勤めて、どうぞも苦勞さまでしたと、何か戻って来ると、少なくとも今よりは良いでしょう。

E: 何も無いよりも、何かもらってやった方が、それは、筋かも知れないが、そういうものが欲しくて、私やりますと言う人はいないじゃないか。

F: 2 年間なんとかやってみようと言う気にはなるかもしれないけれど。頼まれて、断れないときにね。第一、頼む方が言い易いですよ。

N: そうか? どのくらいのものだったら言いやすい? ポテトチップス 1 年分くれるとか。

A: 夫婦で 2, 3 泊旅行できるくらいとか。(笑い)

N: 僕は、名簿データベースを作っていて、ここで得られた経験とか知識を自分の仕事に応

用できると思っていますから、自分としては  
メリットがあるのです。

A: そういう人はいいんですけれども、例  
えば、会計の仕事なんて手間ばかりで、経験が  
生かせるとは思えないでしょう。数字はきっ  
ちりあわせなければいけないし、純粋な手間  
だけでしょ。

会員の仕事もそうでしょう。住所を調べて  
データを集めるところが一番大変な仕事です  
から。そういう仕事をどこか代行してくれる  
所があるんじゃないかな。会報編集の仕事  
は、そう大したことじゃあ無いですよ。原稿  
依頼をして返ってきたものをまとめるだけ  
ですから。

N: 今の仕事で一番大変なのはどこですかね。

E: 今は、事務局がその仕事をしているん  
だが、卒業生の名前を調べて、この学生は卒業  
したのか、していないのか、突き合わせるの  
が大変なんだよな。62年度の卒業生の名簿  
を会報に付けなくてはいけないから現在も作  
業をしているんだが、変に抜いたりすると番  
号がめちゃくちゃになってしまうでしょう。  
だから、一人一人分を事務で確認して、この  
学生は卒業、修了予定者の名簿に載っていない  
けれども、その後どうなったのかとか。まだ、  
在学しているのか、もう、退学したのか、と  
調べて行くわけです。

そういう情報は、全部事務を通してしかも  
らえないでしょう。そういう業務を学外の人  
がこなすことはできないでしょう。僕なら  
ば、学内の人間で事務の人と面識もあるし、  
教官という立場でもあるから、教えてくれる  
けれども、学外の人にそんな情報を出すこと  
はできないでしょう。

N: 確かに。今までは、それで苦労してきたん  
ですからね。そういう情報が全然入ってこな  
かったから。

E: 確かに、会員担当というのは一番大事だ  
し、会員の仕事すなわち名簿を作っておれば  
同窓会としては、成り立っているのですから。  
会報を一生懸命編集している人の前で言  
うことでは無いけれども。もちろん、会報も  
一つの大きな仕事だけれども。それと、名簿  
を作るといって2つだけでいいわけですよ  
ね。あとは、金の管理と。学内にいけば、必

要なときに事務に行って用事を済ますことも  
できるでしょう。理想的には、同窓会の仕事  
は、学内の人間でまかなうべきだと思います  
す。

N: 僕も、そう思います。

E: ボスは、外に居ても良い。例えば、編集の  
仕事なら、A君が名古屋から電話で指示を  
して学内の人に動いてもらう。

N: それは、難しいんです。大学に連絡する  
という点で。いまは、Eさんに夜電話をかけ  
ますが、以前は、学内役員に電話をかけるこ  
とは、しませんでした。下宿している人  
には、なかなか夜遅くに電話なんてできん  
でしょう。つかまるかどうか分かん  
です。Eさんとこなら本人がみえなくても、奥  
さんがみえるもんね。その日つかまらな  
くても次の日には確実に連絡がつかますから。

E: 昼休みに電話をしたらよいでしょう。

N: 昼休みに電話をすると言うのは、苦痛  
なんです。昼休みは、時間が短いんです。  
食堂の売店の前に電話器があるのだけれど、  
皆考えることは一緒なのか非常に混んで  
います。工場の外まで電話をかけに出かける  
のは、気がのりません。余程重要なことが  
無い限り、そこまでは、しませんね。

A: ドクターが出来たから、ドクターの人  
に一人か二人やってもらったらどうでしょ  
う。入れ替えがどんどん出来るでしょう。  
学外では、引継がなかなか難しいんですよ。

N: 今、同窓会の主力メンバーを学内で  
確保出来ると思いますか? 方向としては、  
次第に楽になるとは思いますが、現時点  
で、始めることが可能でしょうか?

E: ドクターの人に手伝ってもらおうとい  
うのは、やりにくいところがあります。あ  
くまでも、学生の身分ですから。ここにも、  
H君に来てもらっているけれど。

N: 今、教職員は、全部で何人くらい  
いますか?

E: 15人くらいかな。

N: それで、多いと見るか少ないと見るか  
意見の分かれるところでしょうね。中には  
過去に役員を経験していて、あんなものは  
二度とやりたくないと言う人もいますから。

E: この前(昨夏)協力を求めて学内を回

のでしょう。

N: ええ。

E: 皆、なんて言った?

N: Aさんには、なんとなくお茶を濁さ  
れてしまいました。Bさんは、博士号がと  
れたら協力しますと言われてました。それ  
までは、申し訳ないが手伝えない。Cさん  
は、役員経験者で僕のやり方を苦々しく思  
っているといわれました。すなわち、会則  
を改正して、終身会費制度を早々と無く  
してしまいましたよね、1期生の人々が作  
った制度を、このことに対してだったと  
思います。自分以外に手伝う人間が全  
くいなければ、自分としても同窓会に  
対して責任があると思うから、手伝  
うが、他に居るなら他を当たってくれ、  
どうしても困ったらもう一度来なさい  
と言われてたように思います。

E: なるほど。D君は?

N: Dさんは、予約がとれずにお合  
いできませんでした。あとE君は、頼  
めばまた、やってくれると思います。  
一番懲りているのはF君でしょう。仕事  
をきちんとやるタイプだから、人より  
苦しみが大きいのでしょうかね。僕  
みたいにズボラでいいかげんな人間  
ならば、35点くらいの点数で低空飛行  
を続けられませんが、80点、90点  
をとろうとすると苦しいでしょうね。  
頑張りすぎて、懲りてしまうかも  
しれません。

こうしてみると、Eさん、なかなか  
止められないんじゃないですか。

E: そんな気がしているよ。ただ、僕  
はずるいからね。形だけの人間になっ  
て行こうと思っている。

N: それは、僕が目指していること  
と一緒にですが。(笑い)

長い間役員をやっていると、役員  
として、なんとなく頼れる人と、頼  
れない人が分かってくるんです。今日  
は、午前で帰ってここに居ないから  
言えるけれどもS君なんかは、僕に  
似てルーズな人間で、よく物を忘  
れるけれども最後の所では、頼  
れますからね。こういう人間ばかり  
が残っていくのかな。役員会活  
動から逃げられないことが分  
かってしまった時、その活動に  
どんなメリッ

見いだして行くかという積極的な意見  
はありませんか。

F: まだ半年しか活動していないので、  
なんにも言えません。

E: 住所変更の葉書の中に自分の知  
っている人の消息が、ときどき入  
ってくるでしょう。例えば退職  
しましたとか、あいつこんな風  
になっているのかという情報  
が最初に入ってくるんです。

A: クラスの同窓会を開く時  
とか、クラブの連絡を取る時  
には便利です。

N: メリットがありますなあ。これ  
が同窓会の本質的なメリッ  
トなんです。

A: これでは、つれませ  
んなあ。

E: 最近、一つメリットが  
出来た。同窓会の金を使って  
週に一回、若い女性が自分の  
部屋に来てくれる。(編者注:  
誤解無きように、この女性  
とは、会員からの葉書を  
データベースに入力する  
作業等の事務処理をお願い  
している方のことである。)

F: 土曜日に仕事をも  
って行けばいいんです  
ね。

(笑い)

N: Y君あたりも喜んで  
飛んでくるかもしれません  
ね。

E: そういえば、この前  
Y君が来たのはちょうど  
土曜日だったから、データ  
ベース検索の使い方等を  
彼女に教えてもらっていたよ。

A: 来年度くらいから、  
報奨金UPを検討しま  
しょう。年間働いた分  
に応じて何か報奨が出  
るとか。

N: でも、それをやろう  
と思ったら活動記録も  
もっとしっかりと残す  
ようにしないとイケない  
ね。俺は、これだけの  
仕事をしたんだと、  
自己申告で良いから形  
が残らないとね。

A: 皆、集まれば、忘  
年会とか、打ち上げを  
やってもいいんだ  
けれど。

N: 初め、役員会を  
組織したとき、そう  
いうことを考えたん  
です。1年終わったら、  
年度の終わりに打ち  
上げ会をやって、それ  
をメリットにしよう  
と。考えはしたん  
ですけど、なかなか  
集まれないので  
実現していません。

打ち上げの宴会  
くらいならば、大目  
にみてもらえる  
と思うんですが  
ね。事実、他の  
同窓会では  
そういうこと  
にお金を使  
っていること



ろもありますしね、形としては、年 1 回、比較的豪華な会食をしながら役員会を行っているという形。

でも、集まらないのでは、1 年間頑張ってきた人たちが出席できなくて、その時だけ出席する人が出て来るんじゃない変な話になってしまうんで、やらずに済んでしまったんです。

2 年前だったか、その年の 1 回目の役員会の後に、寿司屋で会食を持ったことがあるんですが、不評だったんです。帰る時間が遅くなってしまいますので。名古屋から来た人は、そんなものよりも早く帰りたいわけなんです。

それと、役員会でスキーのツアーでも組もうか、合宿と称して、一泊して夜は酒でも酌み交わしながら将来の同窓会の構想を皆で練ろうかというような。これも実現しませんでした。

A: そういう企画もいいんですが、結局全員参加が難しいんです。

N: 結局一部の人が対象になってしまうんですね。

E: 旅行券なら問題無いね。

N: 好き好きに行ってくれと言うふうにはですか。

A: 同窓会活動で奥さんにも負担をかけているんだから。一年間頑張って褒美がもらえたからねと。働きに応じて。

N: 働きに応じてというところがミソなんですか？

A: 名前だけ役員で、全然活動していない人だっているんだから。

E: 役員会、年 3 回のうち 2 回以上出席した人とかね。2 回出席じゃあ駄目だな、3 回も皆勤だな。

N: 分かった。メリットというのは、今のところその報奨制度くらいしかないんだな。考えても良いよ。原案を作ってきてくれよ。それから検討してみよう。しかし、その程度でメリットになるかな。

A: 切ないね。(笑い)

### 役員会の組織論

N: それでは、組織論に移りましょうか。今までの流れとしては、何故大学の中で同窓会の

活動が出来なかったかという、学内に残っている人の人数が少なすぎて……。

E: 最初に同窓会を組織したときは、学内に残っている人間全員を組込んだんでしょ。僕は、含まれていなかったけれども。そのときは、学内に残るかどうかが微妙だったから、黙っていたからね。その連中が 2 年で交代ということで、一斉に引退したものだから、後、学内に活動できる人間が居なくなりました。

でも、大学に残った人と言うのは、同窓会の仕事をするのは、義務みたいなもので、たぶん高専でも同じだと思う。だから、メインで動くのはそのうちの半分ないし 3 分の 1 くらいでも、他の人も全く同窓会とは関係無いじゃなくて、臨時の仕事、低えは卒業生が出る頃に学生の名簿を調べるとかの仕事は、頼まれた場合には手伝うとかいう、準役員の仕事は、持っていないとはいけないと思う。そういう形にすれば、役員の仕事もかなり楽になると思う。

N: 僕も、それは昔から思っていました。唯、それを学外の人間からは言い出しにくい。学内に残っている人でそれを言ってくれる人は、いままでいなかったのです。E さんが、初めてです。それで、今まで苦労してきたわけなんです。

E: 過去に役員をやっていた人だって、頼めば、いやとは言えないでしょう。なにしろ、自分が出た学校なんだから。気持ちとしては、皆、やらなければいかんと思っているのです。それを、きっかけをつくるというか、雰囲気をつくって。例えば会報には、準役員として記載し、役員会等の案内を出して、意見があったらいつでも出席してくれ。但し、頼まれた仕事以外は、何も課さないというようなかたちで。

名簿を作るときに考えてみると、少なくとも我々が調べた名簿よりも、各系の各研究室の持っている名簿のほうがより新しく、正確なことは容易に類推できる。そうすると、それを集めてきて整理した方が、より良い名簿が出来ることになる。その名簿を集めるためには、各系に残っている卒業生というのには、わりと融通が効くでしょう。全く知らない人

が、名簿をくださいと言うよりは。その系だけの名簿を集めて来る仕事だけを、やってもらうわけです。過去の同窓会役員の経験いかにいかかわらず。

N: 今、Y 君が、苦しんでいる仕事を学内に持ち込めますか？

E: Y 君には責任者になってもらって、何もしてもらわなくても良いから。計画とスケジュール管理だけでいいね。どういことをやるのかだけを相談できれば。

N: S 君担当の未納会費、入会金のフォローはどうでしょう。

E: 学内の方がやりやすいでしょうね。分散するとかえって仕事がやりにくくなるんじゃないか。

N: 確かに。集めましょう、なるべく。S 君の得意なところは、業者との折衝なんです。それに専念してもらいましょうか。将来、彼には、会長を引き継いでもらいたいと考えているのですが。このところは、しっかりと録音しておいて下さい。(笑い) 例えば、僕が転勤になるとか、3 年間外国に行つてこいと言われたような場合には、すぐにも引き継いでもらえると思っています。

ここにも、もう一人候補がいますが、外で名前だけの人間なら 2~3 人いますから、重要なことは、学内でしっかりした組織を作ることだと思いますが、今までそれを組織だててやっていこうという試みが学内からでてこなかったのです。それを外からいくらワイワイ言っても、動きませんわね。

E: ただ、中だけで全てを賄うということは、全ての卒業生の同窓会という主旨から言ってもおかしいので、学内がやらなくちゃいけないという言い方はおかしいね。

N: 始めは、そうだったんです。何故、学内の人間だけがやらなくてはいけないのか、と言う疑問があって、外でも出来る組織を作ろうとして、いろいろ工夫を、例えば、編集を名古屋地区の人間がやるとかしてきたわけです。バランスの問題として、外で出来る仕事は、あくまで外で担当するという基本的な姿勢は、残さなければいけません。

だけれど、ここで苦しんでいるのは、外の人間はほとんど入れ替わっていない、この方

針で始めたときの人間が、今でも主担当として残っていて、全然ローテーションがされていない。新しい人間が、ほとんど戦力として入ってきていないということがあります。例外は、編集担当の G 君だけです。

N: 外の人間でカバーすべき問題として、先ほどの編集業務は、確かに外で出来ますが、その他にも広告がありますね。

E: 広告を重視するならば、各企業に就職した人々には是非頑張ってもらわないといけな

な。

N: 自分の勤める会社と言うことですね。  
A: 広告がたくさん取れば、年会費が不必要になるかもしれませんが、現行システムでは、毎年会費として千円出すことになっているでしょう。

N: 広告だけで年会費分を賄うことはできません。会費数が増せば当然郵送料がこれに比例しますから。

広告の話は、卒業生の方から自社の人事担当課に持ち込んでもらうのが、現実でしょう。特に、卒業したての人は必ず春に、出身大学に言ってくれないと言われるので、このとき広告の件を持ち込んでもらうのです。新人には難しいかもしれませんが。

先ほど学内で組織を作って名簿の収集作業を始めるといいましたが、そろそろ各会社の同窓会組織を形成しても良いと思っています。大きな企業では、卒業生が社内に 5 人 10 人と居るところもあるでしょう。先輩社員にとっても、出身大学の後輩が入ってくることは、やはり、気になるでしょう。そういう情報は流しますから、会社の幹事をやって下さいと頼むことが出来るでしょう。その組織に頼んで広告をとってもらえば良いと思います。実は、昨晚このことを考えていたのです。研究室単位で正確な情報を集めると同時に、外でも会社ごとに情報を集めることが出来るでしょう。

A: 今、会社名で検索は出来るのですか。

N: 会社名での検索は出来るようにはなっていません。データベースの勤務先名には好き好きの表現法で書かれているので、同じ会社でも一義には見つけ出せないのです。そこで会社ごとにコードを作って検索できるよう

にデータベースを改良することが必要です。  
 言ってしまったから仕方ありませんが、やりましょうかねこの作業を。研究室の場合も同様に検作用コードが必要なことは同じですがね。

E: 全く同じことを考えています。そういうコード対応表を作るにしても、各系の間でないと内部の事情が分かりません。基本的には、各系を9つの小講座に分けてコードを割り振れば良いのです。

N: 社名コードの組立方で良い方法があったら教えてください。

それから、設備に関しては、中古機が中心

になると思うけれども、主軸となる役員一人に一台のPCを割当て、常に同窓会の情報を検索でき、自分の担当業務に活かせるようにすることを目指して毎年投資して行く考えです。編集作業は別だね。PCでは余り役にたたないからね。

A: 原稿は全て手書きで、入力の手間がかかるから、それよりも業者に任せてしまった方が楽です。手書き原稿をコピーするように読み込んでくれるなら話は別ですが。編集担当で大変なのは寄稿文の依頼の手紙を出すことだけです。

### \* 年会費納入のお知らせ \*

会則改正に従い、下記のように年会費の納入を開始しますので、御協力下さいますようよろしく申し上げます。尚、当年度内に会費納入無き場合は未納会員として登録され、以後会報、名簿等の発送は会費納入まで停止いたします。

**納入方法** …以下のいずれかの方法で御願います。

- ①銀行等の金融機関により下記まで御振込下さい。  
 (住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号368127 豊橋技術科学大学同窓会  
 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1 豊橋技術科学大学内  
 同封の振込用紙により住友銀行支店にて御振込の場合は振込手数料は不要です。(手数料は本会負担)  
**他の金融機関にて御振込の場合は振込手数料は振込人本人の負担**となってしまいますので予め御承下さい。

- ②郵便局にて下記まで御振込下さい。用紙は郵便局備え付けの払込通知票を使用して下さい。  
 この場合も払込料金は加入者(本会)の負担となります。

(口座番号 名古屋6-17220  
 加入者名 豊橋技術科学大学同窓会)

いずれの場合にも振込人の氏名の欄あるいは通信欄に**会員番号**も記入して下さい。

※会計の事務処理上、1989年3月末日までに振込みをお願い致します。

期	会費納付開始年度	初年度会費	2年目以降	対象会員
1	1987年度	1700円	1000円	57年修了 55年卒業 56 " " 57 " "
2		900円	1000円	58年修了 " 卒業
3	1988年度	1500円	1000円	59年修了 " 卒業
4		1500円	1000円	60年修了 " 卒業
5		900円	1000円	61年修了 " 卒業
6	1989~	修了・卒業後3年目から 毎年 1000円		

※ 太枠内は1988年度支払い分です。

### \* 1988年度同窓会役員 \*

名誉会長	本 多 波 雄 学 長	会 計	井 田 民 男 (1系6期)
顧問	北 村 健 三 1系助教授		福 田 耕 治 (2系7期)
	池 田 徹 之 2系助教授	監 事	西 野 達 也 (2系3期)
	米 津 宏 雄 3系教授	会員担当	山 本 一 郎 (3系3期)
	中 川 聖 一 4系助教授		沢 田 直 見 (4系5期)
	阿 部 英 次 5系助教授		池 谷 玲 (4系6期)
	加 藤 史 朗 6系教授	編集担当	安 藤 智 明 (兼 務)
	佐 々 木 慎 一 7系副学長		生 田 浩 之 (2系4期)
	安 田 好 文 8系助教授		野 村 得 之 (3系4期)
会 長	西 澤 一 (3系2期)		後 藤 泰 男 (5系4期)
副 会 長	鈴 木 伸 治 (6系3期)	庶務担当	鈴 木 伸 治 (兼 務)
	安 藤 智 明 (6系4期)		小 山 利 治 (6系5期)
事務局長	江 崎 尚 和 (2系1期)		橋 爪 進 (2系7期)

### \* 十年史・同窓会名簿追加注文の御案内 \*

開学10周年を記念して、'86年に発行致しました、十年史・同窓会名簿についてそれぞれ約100冊、400冊が残っております。

開学以外の歴史を綴った十年史は予想を上回る反響を呼び、300冊完売、その後も注文が増え続け増刷した後の残部数です。

同窓会では独立採算制をとっており、残部数はそのまま赤字として計上されてしまいます。

注文の機会を逸した方も含め、購入を希望される方がございましたら、下記まで葉書にて御注文下さいませようお願いします。

〒440 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1  
 豊橋技術科学大学内  
 豊橋技術科学大学 同窓会事務局  
 十会史・同窓会名簿 係

価格 十年史 = 3,000円  
 同総会名簿 = 2,000円

# 次号予告 from 編集委員

次号より下記コーナーの新設を予定しております。皆様からのお便りをお待ちしております。

**インホームセッション**

クラス会、クラブOB会、その他各種催しの案内及び開催後の報告 etc.


※会報は年内発行が原則ですが、ズレ込むことも多々ありますので、その点は御容赦下さい。



**質問箱**

当同窓会活動に対する質問及び意見をお寄せ下さい。

特に運営方法についての提案は大歓迎です。



## 熱意ある同窓会スタッフを求めます

応募資格：TUT修了・卒業の方  
(名古屋，豊橋近郊)

勤務：年3回程度の会議  
及び自宅での作業 (30hr/年)

待遇：同窓会規定により優遇  
交通費支給

問い合わせ先：TUT同窓会事務局

# \* 豊橋技術科学大学同窓会会則 \*

### 第1章 総則

第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。

第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。

第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

### 第2章 事業

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 会員名簿の発行
- (2) 会報の発行
- (3) 総会の開催
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

### 第3章 会員

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 豊橋技術科学大学学部卒業生で同大学大学院修士課程に在籍していない者
- (2) 準会員 豊橋技術科学大学大学院および同大学学部在學生
- (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職又は退職教員で、役員会において推薦された者
- (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する者で、役員会において推薦された者

### 第4章 役員

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 名誉会長 (豊橋技術科学大学学長)
- (2) 会長 1名
- (3) 副会長 2名
- (4) 理事 若干名
- (5) 監事 2名
- (6) 評議員 各系各期1名
- (7) 顧問 若干名

第7条 役員を選出は、次の各号に定めるところにより行う。

- (1) 会長は、正会員のうちから役員会により選出する。
- (2) 副会長及び監事は、正会員のうちから会長が推薦する。
- (3) 理事は、正会員のうちから評議会が推薦した者及び会長の委嘱による若干名とする。但し、理事の過半数は正会員でなければならない。
- (4) 評議員は正会員各系各期より1名推薦された者に会長が委嘱する。但し、各系各期は原則として学部卒業の時点でグループ分けするものとする。
- (5) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員で役員会において推薦された者とする。

第8条 会長及び副会長の任期は3年とし、他の役員の任期は2年とする。但し、留任を妨げない。なお、任期終了後も、後任者が決定するまでは、その職務を継続する。

第9条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 理事は、庶務、会計及び会報等の編集事務を処理する。
- 4 監事は、本会の財産及び会計を監査する。
- 5 評議員は、重要な会務に参与する。
- 6 名誉会長及び顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて総会及び役員会に出席し、意見を述べることができる。

### 第5章 総会

第10条 総会は、定期総会及び臨時総会とし、会長が招集する。

2 定期総会は、3年に1回10月に開催することを原則とする。

3 正会員の100名以上が、会議の目的事項を示してその開催を請求したとき。

4 会長は、総会を招集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。

第11条 総会は、次の事項を審議し、議決又は承認する。

- (1) 事業計画及び収支予算
- (2) 事業報告及び収支予算
- (3) 会則の制定・改廃
- (4) その他、同窓会の運営に関し、重要な事項

第12条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは議長が決める。但し、会則の改廃は、出席正会員の3分の2以上の承認を必要とする。

第13条 総会の議長は、その都度正会員のうちから選出する。

### 第6章 役員会

第14条 役員会は、第6条第2号から第5号までの役員により構成する。

第15条 役員会は、会長が招集し、次の事項を審議する。

- (1) 総会で決定された事業
- (2) 総会への事業報告及び決算報告
- (3) 総会に提出するその他の議案
- (4) 特別会員及び賛助会員の推薦に関すること

第16条 役員会の議決は、役員会を構成する役員の過半数が出席し、その過半数の同意を必要とし、可否が同数のときは議長が決める。但し、出席できない役員は委任状をもって出席役員に議決を委任することができる。

第16条の2 役員会の議長は会長が務める。

### 第7章 会計

第17条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄附金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じて、総会の議決により、臨時費を徴収することができる。

第18条 本会の会費は次のとおりとする。

- (1) 入会金 3,000円
- (2) 会費 1,000円
- 2 会費の納入は正会員のみとする。
- 3 正会員もしくは準会員として初めて本会に入会するときには、入会金及び初期2年分の会費を納入する。

第19条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が卒業もしくは修了以前に学籍を離れた場合に限り、半年以内に請求があれば返納する。

### 附則

正会員は、3日目から年会費を納付しなければならない。

本会則は、昭和61年10月12日から施行する。

第20条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月末日に終わる。

### 第8章 雑則

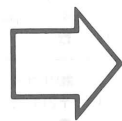
第21条 本会則施行に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。

### 附則

- 1 本会則は、昭和58年10月9日から施行する。
- 2 会員は、住所、氏名、職業を変更の都度、すみやかに本部に通知しなければならない。



## 掲 載 廣 告 募 集



昨年より、広告を募集しておりますが、思うようにスポンサーが集まらず、苦慮しているのが現状です。

スポンサーが十分集まれば、年会費納付の必要もなくなることも考えられます。つきましては、会員諸氏の会社の人事担当者へ右の広告依頼状をお持ちの上、広告掲載をお願い下さい。

## 編 集 後 記

同窓会報第 6 号をお届けします。毎号のことながら、予定通り発行・発送ができずに御迷惑をおかけ致しております。

何の因果か、私の発行した会報もこれで 3 冊目となり、紙面のマンネリ化も否めません。次号では、とりあえず新企画として「インフォメーション」と「質問箱」の 2 つを加える予定でいますので、皆様からのお便りに期待しています。

ところで、同窓会の情報の媒体は、会報しかない現状において、その機能を十分に果たしていないように感じているのは、私だけでしょうか？ 情報提供の場として、会報を活用するためのアイデア・提案等ありましたら、どしどし係までお寄せ下さ

い。

同窓会に足をつっこんで、早 4 年。今では、どっぷりと首まで漬かってしまい、ふと回りを見回すと同じような輩が 3~4 人いたりして……。現会長の努力で少しは環境の改善が成されたものの、新陳代謝が成されていない現状を省みると、まだまだ、改善する点は多々あるのでは、といった感じですね。今後は、データの整備・会報の発行の他に、同窓会が存続していけるような運営システムを構築することの必要性を感じている今日この頃です。そのためには、会則の改正等もあるかと思いますが、会員諸氏のより一層の御理解・御助力をお願い致します。

## 同窓会会員カード送付のお願い

'86年度、会員名簿発行に合わせて、会員の皆様のデータベースの作成を行い、現在、それを基に各種作業に対し有効に活用しています。また、将来的には、会員諸氏からの問い合わせへの対応等、より肌理細かいサービスを行なっていく予定です。

しかし、今回の掲載分の会員名簿からもわかるよ

うに、同窓会事務局の力では自ずと限界があります。会員の皆様からの情報提供が、最も正確で有効な手段であり、転勤等に伴う異動がありましたら、必ず綴じ込みの会員カードにて、御一報下さいますようお願い申し上げます。

**損をするのはあなた自身です！**

人事担当者 様

## 豊橋技術科学大学同窓会誌広告掲載のご依頼

拝啓、時下、貴社におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

卒業生の就職の折には、いつもお世話になっております。厚く御礼申し上げます。さて、当同窓会では、より円滑な運営を図るべく、同窓会誌に広告を掲載することに致しました。

つきましては、下記のように掲載広告を募集していますので、ご検討くださいますようお願い申し上げます。

記

◎同窓会誌：B 5 版、40~50ページ、白黒

- (1) 内容…学内近況報告、会員の投稿、会員名簿 等
- (2) 発行…年 1 回
- (3) 部数…約 2000 部 \* 今後 300 部 / 年で増加

◎広告掲載料：5 万円 / 1 ページ、3 万円 / 0.5 ページ

◎送 付 先：豊橋技術科学大学同窓会  
愛知県豊橋市字天伯町雲雀ヶ丘 1-1 〒440

◎締め切り：'89年 9 月末日

◎支払い方法：銀行振込 \* 発行後、請求書をお送りします。

◎問い合わせ先：編集担当者 安藤智明 (下記まで郵送にてお願いします。)  
名古屋市瑞穂区姫宮町 2-75-2 ネオ新瑞 201 〒467

発行後、見本として 5 冊は無料でお送りしますが、その他は有料 (500 円 / 冊) となります。6 冊以上必要な場合は版下送付の際にお申し添え下さい。

ご多忙中、お手数をお掛け致しますが、宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

1989年 4 月 1 日

豊橋技術科学大学同窓会 会長 西 沢 一

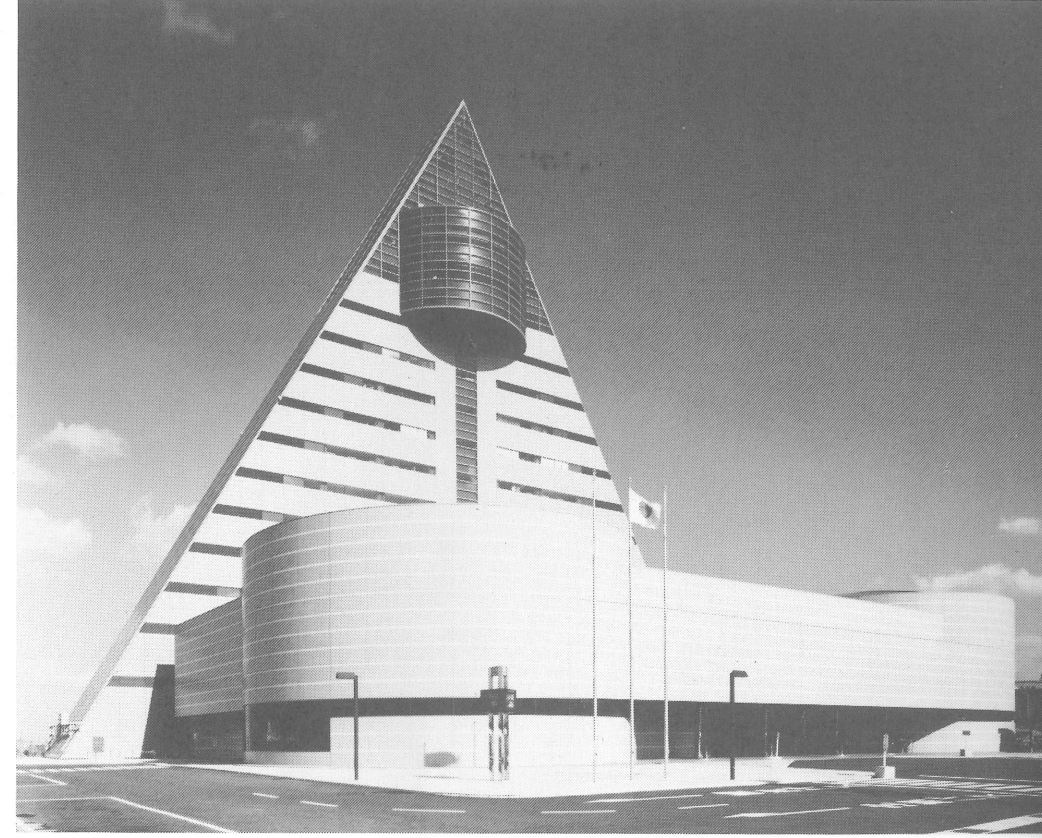
# 豊橋技術科学大学同窓会会員カード

平成 年 月 日 記入

氏名	※ 会員番号		
卒業・修了年次	工学 課程 専攻	昭和 年 月	卒業 修了 月
現住所	(〒 - - )	TEL ( ) -	
帰省先	(〒 - - )	TEL ( ) -	
勤務先	名称・部課名		
	職名		
出身研究室	所在地		

※内へは記入しないで下さい

 INAX



## 人・間・空・間たいせつに

INAXが提唱する「環境美」は、都市空間を再構成する都市美、  
 高質の住まいづくりを推進する生活美、  
 そして企業イメージを建築物で高める企業美——  
 この3つが柱となっています。  
 そしてここに共通する基盤は、「セラミック技術」です。  
 台所、浴室、トイレなど水まわりはもとより、  
 門、庭園、玄関まわりなどのエクステリアをカバーし、  
 さらに建築の内外装から街の広場づくりへと、  
 INAXタイルの世界は大きく未来をひろげつつあります。

株式会社 INAX 本社 〒479 愛知県常滑市鯉江本町3丁目6番地 ☎05693-5-2700